

## 訴訟団アンケート

訴訟団は、12・25不当判決を乗り越え、評価・育成システム撤回・廃止運動を強力に押し進める決意を固めています。1月7日に原告105人全員が控訴し、3月10日には判決を全面的に批判した控訴理由書を提出しました。法廷での闘争の体制は整いつつあります。

一方、ILO/UNESCO 共同専門家委員会(CEART)は、昨年4月に調査団を日本に派遣し、評価システムを厳しく批判した報告を昨年10月に公表しています。

大阪弁護士会も、原告2名が行った人権救済の申し立てに対して11月に、評価システムを厳しく批判した勧告と要望を府教委に行っています。

訴訟団は、控訴理由書、CEART 報告、大阪弁護士会の勧告と要望を最大限活用した運動の構築を追求します。3・28集会に多くの声を結集し、闘いの礎を築きたいと考えています。集会に先立ち、みなさんの声を積極的に受け止めるアンケートを企画しました。是非、ご協力ください。書ける範囲で宜しくお願いします。

「評価・育成システム」に関するアンケート

### 【1】実施内容について

Q1 自己申告票について

- a. 申告票を提出しましたか。 ①提出した ②提出していない  
 b. 提出への働きかけで強制的な面がありましたか。 ①あった ②なかった  
 ①と答えた方 具体的に( )

Q2 管理職による授業観察について

- a. 観察を受けましたか。 ①受けた ②受けていない  
 b. ①受けたと答えた方  
 授業観察についてどう思いましたか。 ①問題がある ②問題はない  
 c. ①問題があると答えた方

どういう点でしょうか(3つまで)

- ①学習指導の流れが崩れるなど、指導に悪影響が出たことがある  
 ②教室の雰囲気なども含め、生徒に対する悪影響が出たことがある  
 ③一方的なものであったため、そのことによって授業に支障が生じたことがある  
 ④評価を意識することによって悪影響が出たことがある  
 ⑤研究授業など教育活動の改善のために行なうものと異なり、そもそも有害である  
 ⑥そもそも、授業の場に管理職が参加することに慎重であるべきである  
 ⑦観察後の「指導」に教育内容にまで踏み込むなどの問題があった  
 ⑧その他の問題があった(具体的に )  
 d. ⑦問題があったと答えた方、具体的に書いてください。  
 ( )

Q 3 「評価結果」の開示を受けましたか ①受けた ②受けなかった

①受けたと答えた方

a. その結果はどうでしたか ①S ②A ③B ④C ⑤D

b. その結果の説明に納得はいきましたか

①納得がいくものだった ②納得がいかないがやむを得ない

③納得がいかないので「苦情」申し立てを行いたい

【2】「評価・育成システム」の影響について

Q 1 「評価・育成システム」が実施され、学校は変化しましたか。

①特に変化はない

②学校運営、教育活動にマイナスの影響が出た

③学校運営、教育活動にプラスの影響が出た

Q 2 Q 1で「②マイナス」と答えた方にうかがいます。マイナスと思われる点は下記のいずれでしょうか(複数回答可)

①教職員のチームワークに悪影響があったと思う

②管理職と教職員の関係が悪化したと思う

③教職員の「士気」が減退したと思う

④「評価」を意識することにより、生徒指導に有形・無形の悪影響があったと思う

⑤のびのびとした雰囲気なくなり学校に活気がなくなったと思う

⑥円滑にいかず、混乱していると思う

⑦その他 ( )

Q 3 Q 1で「③プラス」と答えた方にうかがいます。プラスと思われる点は下記のいずれでしょうか(複数回答可)

① 教育活動への教職員の意欲が増した

② 自らの資質能力への自覚が増した

③ 学校組織が活性化した

④ 教職員のチームワークが良くなった

⑤ 生徒に対する指導に改善が見られた

⑥管理職とのコミュニケーションが深まった

⑦その他 ( )

Q 4 今後の問題としてうかがいます。この制度が定着していった場合の影響をどのようにお考えですか。Q 2, Q 3の回答例などを参考にしてお答えください

① 大きな変化は考えられない

② 学校運営、教育活動にマイナスの影響が出る

③ 学校運営、教育活動にプラスの影響が出る

Q 5 「評価・育成システム」が教職員と管理職との関係にもたらした変化について(今後予想されることも含めて・複数回答可)

- ①特に変化はない
- ②校長・教頭が生徒・教職員より府教委に顔をむけるようになり、信頼関係が損なわれた
- ③ 一方的・強権的な学校運営が行なわれるようになり、信頼関係が損なわれた
- ④ 同じ学校の教員という関係が損なわれて、上司:部下の関係が前面に出るようになった
- ⑤ 良い意味のリーダーシップが発揮され、教職員が学校組織の一員として力を出しやすくなった
- ⑥教職員と校長・教頭のコミュニケーション・指導が深まり、信頼関係が強まった
- ⑦その他 ( )

Q 6 「評価・育成システム」が教職員の協力・共同の体制にもたらした変化について(今後予想されることも含めて。複数回答可)

- ①特に変化はない
- ②評価を意識することにより人間関係にマイナスがうまれた
- ③上意下達が強まり、教職員どうし協力して教育にあたろうという雰囲気弱まった
- ④自主性が損なわれることによって意欲が減退し、結果として協力・共同弱まった
- ⑤組織の一員という自覚が高まり、協力・共同が強まった
- ⑥校長の指導・助言の下、目標を持って課題に取り組む意欲が増し、結果として協力・共同が強まった。
- ⑦良い意味での切磋琢磨が生まれ、協力・共同が強まった
- ⑧その他 ( )

Q 7 「評価・育成システム」について

- ①良い制度である
- ②特に問題はない
- ③問題があるが、やむを得ない
- ④問題があり、改善すべきである
- ⑤問題があり、廃止すべきだ
- ⑥その他 ( )

Q 8 Q 7で「(③④⑤問題あり)」の方におたずねします。どのような点に不満をお持ちですか(3つまで)

- ①生徒という人間を対象とする教育活動を一定の尺度で評価すること

- ②短期的な「効果」ではかれない教育活動を期間を限り段階をつけて評価すること
- ③多様な内容を持つ教育活動を少数の管理職が評価するという不可能なことをやること

※教科が異なる管理職の教科指導評価、クラス・生徒の状況を見「断片」で評価することなど

- ④チームでやる教育活動を個別の教職員の評価に結びつけること
- ⑤自主的に頑張ったことが「評価のため」と取られること
- ⑥人間性や人格まで評価されるような感じがすること
- ⑦結局は管理職の好き嫌いで評価されるおそれがあること
- ⑧日常的な意思疎通がない管理職に評価されること
- ⑨教育者として欠点がある管理職に評価されること
- ⑩教職員からの管理職評価がないこと
- ⑪その他 ( )

### 【3】訴訟団の取り組みについて

Q 1 08年10月29日に公表されたCEART報告についておたずねします。

- a. ①届いている ②届いていない
- b. CEART報告に関してご意見をお聞かせください。

Q 2 弁護士会の08年11月7日の勧告書、11日の要望書についておたずねします。

- a. ①届いている ②届いていない
- b. 弁護士会の要望書、勧告書に関してご意見をお聞かせください。

Q 3 訴訟団の取り組みに関してご意見をお聞かせください。

\_\_\_\_\_立\_\_\_\_\_学校 お名前\_\_\_\_\_

ご協力有り難うございました。